

議席 6 番，飯田進君。

〔6 番 飯田 進君登壇〕

○6 番（飯田 進君） 皆さん，こんにちは。傍聴にお越しの皆様，午前中に引き続き大変ご苦労さまでございます。議席番号 6 番，飯田進，議長のお許しをいただきましたので，通告に従い，一般質問をさせていただきます。執行部の誠意あるご答弁お願いいたします。

私が初めて町の財政状況について，特に将来負担比率について一般質問をして，県で最下位であるということを知らされ，愕然とし，この町は大変な状況にある。ここまで悪くなってしまって，果たしてこれから本当に回復，改善できるのだろうか，さらに悪化していくのだと心配をした時期がございました。しかし，昨日の町長の行政報告の中で，この将来負担比率が本当にわずかの期間で劇的に大幅に改善されているという報告を聞きまして，財政も確実にやっている，この一事を見ただけでも町政は順調に，かつ着実によくなっているとの印象を受け，安心したところであります。橋本町政に改めて敬意を表する次第であります。

つい先ごろ，圏央道も県内全線開通の運びとなりました。これを機に，これからさらに町も発展していくのだという町民の皆様のご期待も大きく膨らんでいることと思います。私もこれからの町発展のために少しでも寄与できればとの思いを強くしたところでございます。そんな思いを込めまして，早速質問に移らせていただきます。

行政報告にもございましたように，道の駅の売り上げが 6 億 6,000 万という大変な伸びを示しております。また，ふるさと納税につきましても，県内で断トツの 1 位ということで，これも大変な好調な数字を出しております。本日はこの 2 項目に関連しての質問を行いたいと思います。

まず質問の 1 項目め，観光事業について。1 点目といたしまして，国の拠点整備事業の補助金を獲得したと聞くが，道の駅さかいの今後の整備方針は。「広報さかい」等にも掲載され，町民の皆さんも大変関心を持っていることと思います。この点について質問させていただきます。

2 点目として，圏央道全線開通に向け，ふるさと納税感謝祭など寄附者への還元事業は何か考えているか。ぜひ境町を訪れていただけるような事業を実施していただきたい。2 月 26 日に県内全線開通しました。さらに，残る他県でも全線開通は間近でございます。そういった中で，ぜひ境町に来ていただけるような事業を行っていただけないかということで質問させていただきます。

2 項目め，ふるさと納税の使い道について。1 点目といたしまして，ふるさと納税を学校施設の整備に使っていただけないか。現在境第一中学校では，吹奏楽部や野球部など緊急に整備を要するものがある。ぜひ整備に使っていただきたい。教育環境をよくする意味でも，そういった施設とか設備を充実させるということは大変重要であると思います。この点について質問させていただきます。

2 点目，農家支援でことしも米の買い取りは実施していただけるか。そのとき，金額と数はどのように考えているか。これは生産者からも大変好評でありまして，要望が数多く来ていると伺っております。ぜひこの点についてもお聞きしたいと思います。

以上、2項目、4点についてご答弁願います。

○議長（倉持 功君） 最初に、観光事業についての質問に対する答弁を求めます。

秘書公室長。

〔秘書公室長 忍田 博君登壇〕

○秘書公室長（忍田 博君） 改めまして、皆さん、こんにちは。私のほうから飯田議員の1項目め、観光事業についての1点目、国の拠点整備事業の補助金を獲得したと聞くが、道の駅さかいの今後の整備方針はとのご質問にお答えをさせていただきます。

地方創生拠点整備交付金の採択を受けまして、道の駅の増築に伴う補正予算を今定例会に1億9,800万円を計上させていただいたところでございます。なお、財源の内訳につきましては、2分の1の9,900万円が国庫補助金で、残りが起債であり、そのうち50%が交付税措置されますので、実質的な町の持ち出しは4,950万円となります。また、事業の内容につきましては、実施設計委託料で2,000万円、本体建築費で1億5,000万円、その他附帯設備で2,800万円でございます。議決をいただいた後、実施設計を委託してまいりますので、建築工事の概要につきましては現在の物産館の北側に別棟でレストランを建設いたします。1階は地産地消と産地直送によるビュッフェスタイルのレストランと、境町産品が購入できるこだわりの物産スペースを配置し、子供から大人までが楽しめる自然レストランを計画しております。また、2階にはさし茶の文化を伝えるさし茶カフェと、梅山豚と常陸牛、地場産野菜の鉄板スペースを配置し、大人数の観光客向けにも対応できる空間を確保し、さらに屋上にはミニイベント等が開催できるスペースを確保していきたいと考えております。

なお、今後の行程につきましては、今定例会で補正予算が議決されました後、実施設計業務を委託しますので、3月下旬から4月上旬までには議員の皆様にご覧いただきたいと考えてございます。また、7月中に工事を発注していく計画でありますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、2点目の圏央道全線開通に向け、ふるさと納税感謝祭など寄附者への還元事業は何か考えているか。ぜひ境町を訪れていただけるような事業を実施していただきたいとのご質問でございますが、長崎県の平戸市におきましては、東京湾大感謝祭のときに寄附者を招待し、隣の飲食店などの協力を得て、平戸産品の創作メニューの提供や特産品が無料で食べられる引きかえ券をプレゼントするなどの感謝祭を開催しております。また、北海道の上士幌町でも、寄附者などを対象に隣のホテルで感謝祭を行うなど同様なことを行っており、いずれも単なる地元産品のPRだけではなく、移住や交流をメインに実施しております。

そこで当町でございますが、ふるさと納税をされた方から境町にぜひ訪れてみたいとのコメントが寄せられておるところでありまして、寄附者の約32%が東京に住んでおられますので、感謝祭を東京で実施することも考えておりますが、現在計画をしている内容は、本年7月16日のさかいふるさと祭り大花火大会の当日東京へバスで迎えに行き、境町に来ていただけるような計画を考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 補足で、町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、飯田議員さんのご質問に補足をさせていただきます。

今回国の地方創生拠点整備交付金ということで、全国では609の自治体、897事業、合わせて556億円が採択になりました。県内では14市町村、7億2,353万円が採択になりました。近隣ですと県西では常総と境だけということで、常総市は6,000万円災害対策の拠点整備ということでついております。町で言うと、城里町が3,900万、大子は975万、茨城町は310万、あと近くの守谷が900万円ということで、7億のうちの大きな部分を境町と、北茨城市が一番、9,985万だったかな、なものですから、ちょっと具体的な数字は若干ずれていますけれども、だったものですから、県内この7億のうち北茨城とうちで2億円をほぼ占めているということで、関係各位には改めて、この補助金をとるに当たりまして本当に内閣府の参事官を初めお世話になりましたので、感謝を申し上げたいというふうに思っております。

実際にどういったものをつくるのかということでもありますけれども、簡単に言えば、今駐車場が、土日なんか行っていただくとわかるとおり、もういっぱい入れません。とにかくお客さんが多くて、納入業者の車がとまっても、歩道にあつて邪魔だと言われるぐらい非常にお客さんも多くなっている現状の中で、やはりしっかりと地域のことをPRしていく場所をつくっていかうと。そして、売り場の面積を、やはり売り場の面積として、売り場面積が大きくなれば売り上げは上がりませんので、幾らいろんなものの物販で1億5,000万から6億6,000万円に上がったとはいっても、まだまだやれる可能性はあるというふうに思っておりますので、道の駅につきましても、レストランスペースを外に出して、そして先ほど屋上と言っていましたけれども、屋上はなくなる予定です。屋上はなくして、多分今皆さんに議決をいただければ、すぐに設計のほうを発注しますけれども、本当に研修としては全国から訪れていただけるような施設にするということで今計画をしておりますので、皆様に議決をしていただいた後、3月末には記者会見などもできるかなというふうには思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

なお、2点目の感謝祭でありますけれども、こういったものもやはり、我々の自治体もそうですけれども、非常に東京都のお客様というか、東京都の方からいろいろな寄附をいただく中、そして議員の皆様もサイトのほうを見たかと思っておりますけれども、ふるさとチョイスの境町のページを見ると、わきに全部コメント欄がずらっと並んでいます。その中に多いのは、境町にぜひ行ってみたいという声結構あるものですから、ですので、ぜひ境町に来れるような、そういったイベントも実施をしていきたいということで、第1弾としては、7月16日の花火大会の日にバス2台ぐらい出して新宿駅とかに迎えに行って、境町へ連れてきて花火を見てもらおうと、そんな感じのイベントも今企画をしたいというふうに考えておりますので、ぜひご協力をいただけますようよろしくお願いを申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） レストランの設置事業ということで、大変な金額を補助いただいてやるということで、ありがたいことだと思います。今各地の道の駅では、本当に工夫を凝らして、大分ユニークな特色ある施設を建てて集客に臨んでいると思います。まだ設計段階にも至ってはいないと思うのですが、できれば施設はどのような特色あるユニークな構想を町では考えて、もし、今の段階であれば、ちょっとその辺もお聞かせいただきたいと思います。

○議長（倉持 功君） 町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、飯田議員さんのご質問にお答えをします。

レストランの拡張という意味では、実はないのです。実際には駐車場は今中和建設さんの前のちょうどあそこの下水の側というか、排水路の。右側のクリハラさんのガス屋さんの手前のところ、そのの民間地もお借りをさせていただいて、駐車場をまず広げるというのがありますし、今森みたいになっていますよね、北側は。あれを全部駐車場に、全部平面化して、そこにレストラン棟を建てるということでありますけれども、目的はレストランの設置費用ではございません。それでは国の補助金はとれません。ただ単に道の駅を拡張するというのでは、補助金は一切とれません。

何を今回目的にしているかという、実はこれは財務官僚の方とも打ち合わせをしたのですけれども、この施設をつくることによって町のそういう、例えば梅山豚とか、そういう地域ブランドの核にしていこうというのがまずテーマであります。そして、行く行くは、これも壮大なプロジェクトなのです。先ほどの英語と一緒に、壮大なプロジェクトです。実は境町の、例えば梅山豚をイタリアのパルマにしていこうと、そういったことが実は目的にあるのです。そのパルマにしていこうという中で、何がパルマなのだという話になると思いますが、パルマといって議員さん方を思い出しますか。生ハムですか、チーズですか、何を思い出しますか。パルミジャーノ・レッジャーノというチーズですか。何を思い浮かべますか。大体チーズか生ハムですよね。それは、4キロ四方のパルマという町。4キロ四方ですから。そんなところで3,000億稼ぐわけですよ、あの生ハムとチーズは。そういったものをこの町で梅山豚を利用してつくっていけないだろうかというのがまずの始まりでありました。その中で、そういう加工をしたりとか、それからそこで、その店舗の中で、ワインのように地域称号を与えていくとか、そういった仕組みもここでつくっていく。そして6次化も図っていくというのがこの施設です。その附属として、リアル店舗としてふるさと納税が食べられる施設にもするし、さしま茶をPRする場所もつくるし、それから、例えばビュッフェのところでは地元産の地場野菜をいつも食べられるような、そんなこともできるような、そういう形にしてやっていくというのが今回のプロジェクトでありますので、とにかく日本のパルマになるように境町をしていくというのがこのプロジェクトの実は壮大な点でありますので、ぜひ議会の皆様方にもご協力いただきたいというふうに思っております。

なお、建築につきましては、言える範囲でということなので、もうちょっと待っていただければ新聞に載るかなとは思いますが、非常に有名なというか、高名なというか、建築家の方にもご

相談をさせていただいて、普通だと非常に高い金額でやるのですけれども、境町のこういう趣旨に賛同していただいて、本当にボランティア的な価格で今設計をしていただいているような、そういう話で進めさせていただいておりますので、これができる、境町というよりは茨城のというような感じになってまいりますので、ぜひ皆様方にも早目に議決をしていただければ報告をさせていただきたいなというふうに思っております。

ですので、水素ステーションも6月に完成をし、いろんな英語教育も秋に入り、そんなことをいろいろやりながら、多分来年の3月にはこの施設が完成するというようなスケジュール化になっていきますし、来年の3月には今度圏央道のインターチェンジ周辺ということも動いてくるということでもありますので、とにかく事業はめじろ押しでありますので、議員の皆様方にはさらなるご協力をよろしくお願い申し上げまして、補足とさせていただきますと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） よくわかりました。最後に町長がお話した、何か高名な設計士にお願いするというふうな話を漏れ聞いていたものですから、かなり力の入った施設をつくるのではないかとということで先ほど質問させていただきました。

これは、今回はレストランの建物整備事業ということですが、ちょっと関連して。たしかこれは以前建物以外の整備ということで、隣に御老公の湯がありまして、その後ドン・キホーテも入りまして、そういった施設が隣接するという、道の駅と御老公の湯の敷地ですか、それを行き来できるような通路、そういったものを考えていきたいというような話をたしか聞いたような気がするのですけれども、その点についてはいかがでしょうか。といいますのは、大分最近私も駅へ行きましたら、関宿側から境町へ渡ってくると、本当にドン・キホーテ、御老公の湯ですか、大変目につきます、洋風の立派な建物で。片や和風の重厚な道の駅ということで、これはぜひ両方行き来できるような、有機的な行き来ができれば、相乗効果を持って大変道の駅の売り上げにもつながるような、集客増につながるようなことになるのではないかと、その思いがあったものですから、その辺の両者の通行ですか、そういったあれはその後どうお考えになっているのかお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、飯田議員さんのご質問にお答えをします。

まずやらなければならない点というのは、その御老公の湯とそちらをつなぐというよりは、今ある施設の中でどれだけ売り場面積を確保できるか、そして駐車場を利用できるかということ、まずやれることからやるというのが町の考えであります。ですので、トイレも10年以上ずっと直せないという中で、県に予算をつけていただきまして、今年度あそこの施設に2,600万のお金をつけてもらって、あれはきれいになったわけですね。今度何をやるかという、あそこの平面の駐車場、あれを全部、

邪魔なブロックみたいのを全部どかせていただいて、あそこも30台ぐらい増設というか、全部変えます。それも県のほうの事業でありますけれども、今設計が間もなく上がるということで、そういった事業も県のほうにお願いをして、今やっているところでもありますので、とにかくやれるところをやっ

ていって、なおかつその後の段階としては、そういう連携をしていこうと。
今ドン・キホーテの次に、また御老公の湯の中にちょっと誘致をしたいというものがあまして、今進めているところでありますので、そういったものが来ると、非常にあそこはにぎわいをもっと広がってくるものですから、そういった部分もやはり検討していかなければならない課題だというふうにはわかっておりますので、一個ずつやりながらそこも検討していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） ぜひ期待したいと思います。

先ほどの2点目ですか、感謝祭ですか、これは北海道とか九州であれば境まで来てもらうというのなかなかできないと思うのですけれども、逆に東京都から境町ということであれば、圏央道も全面開通ということで大変来やすいと思います。先ほどお話のあった花火大会ですか、何か都内でも大きな花火大会が中止になるというような中で、ということであれば、ぜひ境に来てもらうことが、実際に触れてもらうことのほうが一番よろしいのではないかと思いますのですけれども、その辺はいかがでしょう。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、飯田議員さんのご質問にお答えをします。

先ほど答えたとおりなのでございますが、本当に東京都の方々にも非常に多くの寄附金をいただいておりますので、やはり1時間ということもありますので、本当にバスを出して、例えば2台ですから、100名程度ということであると、多分非常に人気になるのではないかなとは思いますが、やらないよりは、やっぱりしっかりやって、地域に来てもらうと。一回知ってもらうということをやっ

ていきたいと思っています。
とにかく最近、町へ来ていただく。例えば、皆さんも何度か見ていただいたと思いますが、例えばワールドビジネスサテライトのふるさと納税の境町の特集であったり、レンタカーを借りてくるプラン、それからNHKのこの間のニュースであったりとか、さまざまな点で境町は非常に今取材をしていただいて、マスコミに出る、露出する機会もふえております。ですので、そういったときにしっかりと訴えていければなというふうに思っております。今週の日曜日に、コビーカップという子供たちのサッカー大会を、三郷市でやっていたものをうちのほうで誘致をさせていただいて、やったのです。全国から山形県の東根市とか東京都の目黒とか、野田からも子供たちが500人、50チーム参りまして、親御さんを入れると1,800人だそうです。僕は1,500だと思っていたら、きょうちょうどお礼に来

て、1,800人いましたという話をされまして、その親御さんたちの話を聞くと、こういう話をしていました。今までコビーカップというのは何回もやっているものですから、これだけ地域、いわゆる地方自治体が、市町村がそのサッカー大会に対して応援してくれたことはなかったと。名前を言うてしまうとあれですけども、三郷よりは境町のほうが非常に歓迎もよかった。野田にもないような施設が、人工芝のところでもやりましたから、境にあつてびっくりしたとか、そして目黒から来た人は、圏央道が通ったら1時間で来てしまつて、こんなに……境町は最初わからなかった。どこなのですか。来てみたら、こんなに近くて、しかも非常に住みやすそうで、環境もよくてびっくりしたとかと、生に意見を実はそういったところでもちょうど聞いているところなので、ぜひ来ていただければ、この境町のよさをPRできるのではないかなというふうに思っていますので、やはりそういう大都市圏の方に境町へ来ていただく。そういう感謝祭もやっていきたいなというふうに思っていますので、よろしくをお願いします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） ぜひ実施していただきたいということでよろしくお願い申し上げまして、この質問は終わらせていただきます。

○議長（倉持 功君） これで観光事業についての質問を終わります。

次に、ふるさと納税の使い道についての質問に対する答弁を求めます。

秘書公室長。

〔秘書公室長 忍田 博君登壇〕

○秘書公室長（忍田 博君） それでは、続きまして、飯田議員の2項目め、ふるさと納税の使い道についての1点目、ふるさと納税を学校施設整備に使っていただけないか。現在境第一中学校では吹奏楽部や野球部など緊急に整備を要するものがある。ぜひ整備に使っていただきたいとのご質問にお答えをいたします。

まず、ふるさと納税の使い道について申し上げますと、納税者が寄附金を農業の振興と商業の育成、都市基盤と生活環境施設の整備に、教育文化の向上に、その他住民福祉の向上に使っていただきたいと指定をしましてふるさと納税をする寄附者もおりますが、指定をしないで町に任せるという寄附者が約4割ございます。町ではこのふるさと納税の寄附金を活用しまして、28年度には町内の全小中学校7校へのタブレット導入事業を初め、アルゼンチン共和国児童派遣事業、米農家支援事業、水素自動車ミライ導入事業、給食費助成事業、20歳までの医療費無料化事業などを実施してまいりました。

ご質問にあります境第一中学校の要望でございますが、吹奏楽部からは9品目、12点の楽器の購入要望が出されております。参考見積もりをとらせていただいたところ、税込み総額が815万円でございます。100万円を超える大型の楽器の購入要望でありまして、古くなつてもまだ使用できる楽器もあることから、要望について全て応じたいところではございますが、どうしても必要なものから順次

購入していただきたいと考えてございます。

また、野球部からのベンチ整備につきましては、野球場のような立派なダックアウトではなく、学校運動場に見合った簡易的なものを設置すべく調整をしているところでございますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

次に、2点目の農家支援でことしも米の買い取りは実施していただけるか、金額と数はとのご質問にお答えをさせていただきます。

ふるさと納税還元事業の一環として、米農家支援事業を平成27年度、28年度と実施してまいりました。平成27年度は、玄米30キロを8,500円で500袋の募集に対しまして、37名からの362袋を買い上げをいたしました。また、28年度につきましては、1万円で41名から400袋を買い上げをいたしました。新年度におきましても、28年度と同様、400袋を1万円で買い上げ、引き続き米農家の支援をしていく考えでございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） 教育関係のいろんな拠出、大変評価できることと思います。今回私は、自分の知り得る範囲で一中の2つの整備を質問させていただきましたけれども、ほかにも各学校要望はあるのでしょうか。ちょっとその辺をお聞かせください。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（張替克己君） 飯田議員の再質問に対しましてお答えしたいと思います。

ご質問にありましたほかの学校からはそういう要望がないのかということでございますけれども、ほかの学校からも細かいこと等も含めますと上がってきておりますので、今回の先ほどの答弁と同じように、その要望に対しましては順次応えていきたいというふうに考えております。

○議長（倉持 功君） 補足で、町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、飯田議員さんのご質問にお答えします。

要望というのは毎年上がるのです。道路と一緒にです。道路と一緒に、各小学校、各中学校から、ことしてはこれをやっていきたいというのを上げていただくのです。その中で優先順位でやっていくという意味です。部活から上がってきたというのは今回初めてです。ほかのところは部活からは上がってきてないというふうに思っています。ですので、例えば学校的にあそこをやってほしいのだよなどいうのを口頭で言われたりはしても、要望として上がってきたというのは、今回の境一中の吹奏楽、そしてダックアウト、そしてテニスコートの整備といったものが今上がってきているという状況になっています。

ですので、各小学校、例えば学校の校長室にエアコンがないからエアコンをつけてくれとか、そんな要望とか、そういうのがいろんなところから上がってきているです。それは普通に順次やっていっ

ているというのが現状であります。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） 今回本当に緊急性があるということでの要望ということで、対処していただけるという話だと思います。きのうの町政報告、行政報告ですか、今回の予算にもふるさと納税、いつまで続くかわからない、大変貴重な財源であると思います。やはりその要望のある事項に対しては本当に、ないからとか、これが欲しいからというのではなく、本当に必要性のあることをよく勘案していただいて、要望に応えていただければなと思います。これは要望ということで。

先ほど、2点目の農家支援策ということでご説明いただきましたが、やはりふるさと納税の返礼品ということで、やはり需要があつて、要望があつて、生産者の希望があつてということなんです。その内容とか、数量ですか、そういったあれで何かちょっと毎年苦勞なされているというような話ですが、その辺はどうなっていますでしょうか。

○議長（倉持 功君） 町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、飯田議員さんのご質問にお答えしますが、苦勞されているという意味が若干わからなくて、例えば農協さんで買い上げるのは30キロ6,500円ぐらいですよね。ですので、1万円で買い上げただけで、1人10袋まで売れますから、普通に売るより3万5,000円高いのです。なので、誰が何を苦勞するのかがさっぱり町としてはわからないという、逆に喜ばれる事業なのです。

それともう一つは、例えば、なぜ、では町は高く買えるかという、そのままふるさと納税の商品として我々は出してしまいますから、例えば今で言う15キロを例えば1万円の返礼品で出しているというものがございます。そうすると、送料込みの大体5,000円から5,500円ぐらいです。送料が高いですから。だから、そのお金を使えるわけです。ですので、倍にすれば1万円ですよね。だから、1万円で買ってもとんとんではやれるよというのがこの事業の僕らの特徴でありますので、実際に30キロを削ると27キロとか28キロにはなってしまうと思いますけれども、農家支援としては、やはりそれだけ少しでも、この米が安くなった現状において、少しでも町が買い上げることによってプラスにしていきたいという事業であります。ですので、例えば返礼品5,000円だとすればそうなのですけれども、うちの町には1万円入るわけですね。1万円、寄附は。1万円入りますから、例えば、28キロぐらいを1万円で買ったとしても、20キロ大体6,000円ではくれられるわけですね。そうしたら1万円入りますから、だから6,000円くれたとしても4,000円は町の収入になってしまうものですから、町の収入になりつつ、米農家も逆に支援していけるというような政策なので。

去年は実施をするのが遅かったのです。去年は実施をするのが遅くて、ある方に、ことしはもうやってくれないのかということで催促をされまして、わかりました、ではやりましょうと行って始まったものですから、ちょっと計画性はなかったかなと思いますが、ことしはもうやりますよということでやらせていただいて、その時期にこれだけ買えますよという形になっていけば、皆さん10袋残され

るでしょうから。そうすれば400袋はすぐはけてしまうのではないかなというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） 私もちよつと説明の仕方が舌足らずだったのですけれども、要するにこれ、27年度ですか、500袋の募集に対して362袋。それで、次年度は400袋、これはそのまま。その次の年も400袋ということで、不足したときもあつたということで、その辺何か。この募集に対して。

〔「8,500円。最初。値段が違ふ。1万円で買ひ取る」と言う者あり〕

○6番（飯田 進君） 500袋の募集で、値段で調整をする。

〔「違ふ、違ふ。8,500円で買ひ取りしてあります、最初。今は1万円なんです」と言う者あり〕

○6番（飯田 進君） 今は1万円ですよね。

〔「そこまで上げたわけですから、売る人は。みんな喜ぶのです」と言う者あり〕

○6番（飯田 進君） だから、そういう経緯はあつたということ……

〔何事か言う者あり〕

○6番（飯田 進君） 何か寄附者の要望というのが、袋は30キロがいいとか、15キロがいいとかというような話も聞いたような気がしますので、その辺がどうだつたかなということで質問したのですけれども。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） そのまま玄米でくれているのは、玄米でくれるプランとか、いろいろあるのです。見たことはもちろんありますよね、納税のサイト。いろんなのが出ているのです。20キロの精米したやつも出しているのです。15キロとか。なので、もらうほうは自分たちで選びますから。自分たちで15キロがいいのか、20キロがいいのか、5キロの小分けの4パックになっている20キロがいいのかとか、自分たちが選ぶのです。ですので、全部を30キロのそのまま袋でくれているわけではないのですから。ことしも最後、全部精米して20キロのパックにしたら、全部すぐはけてしまつたわけですね、1日、2日で。そんなものですから、意図するところが若干わからなくて。

30キロの米を買つて、30キロの米袋で送っているわけではないのですから、全部。それは、それを選ばれた方。それを、逆に言えば、精米してパックにしてしまえばすぐ出てしまうという。仕組み上の問題ですので、全く心配は要らないかなというふうに思つておりますが、いかがでしょうか。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） 私も若干勘違いして。最初30キロをあくまでもベースで買入れると。ただ、27年度が500袋募集したのに三百何袋というようなことであつたので、その辺がどうなのかなと思って。今は問題なく、むしろ募集に対してさらに多くの応募でもあるのかなというようなこともちょっと、若干想像したものですから。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） 飯田議員さんのご質問にお答えをします。

最初、当初は8,500円で500袋とやったのです。その時期もあつたものですから。要は、今まで売人が決まっていたりするわけです。親戚の人とか、友達とか、1袋幾らで売ると決まってしまうわけです。そうすると10袋余らないというのがあつて、いろんなことをやっていったら三百六十何袋だつた。では、1万円にして400袋にしようかといつてやったら非常に好評なわけです。先ほどの8,500円の500袋の例があつたので、余り喜ばない、やらなくていいかなと思つていたのです。やらなくていいかなと思つていたら、やられた方から、ことしはやらしてもらえないのかという話になりましたので、やったら、ぜひ来年度もという話になっている話だと思つておりますので。

やはり8,500円で売ると1万円で売るとでは、10袋の条件ですから、1人。1人10袋が上限なので、3万5,000円ぐらいになるわけですよ、現金で言えば。3万5,000円ぐらいになるものですから、ありがたい事業にはなるのではないのかなと思つていますがけれども、その辺は400袋すぐ埋まってしまうということと、それ以上にやったらどうかという話については、いろんな農業関係の団体の中で話をする中で、もし要望があればふやしてもいいですよというような話はさせていただいておりますので、議員さんの中で400袋やったときに、秋口ですね、400袋やったときに足りない、もっとふやしてくれというのであれば、それは全然、相談に応じますので、言つていただければというふうに思つておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

飯田進君。

○6番（飯田 進君） 何か大分くどい話になつたのですけれども、27年度、最初、初めての年ということで、恐らく農家さんも出荷予定があるから、その関係で残しておくものとか、その辺の調整がある関係で十分な確保ができなかつたのではないのかなと思ひます。今はむしろ、お話のように、要望が大分満杯、クリアできるということであれば、今後もこの数量に関してもふやしていければ、ひいてはふるさと納税の応募がそれだけ多いということで、指名があるということであれば、さらにふやしていくということで実施していただければよろしいかと思ひます。ぜひ今後も続けていただければと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

以上で終わります。

○議長（倉持 功君） これで飯田進君の一般質問を終わります。

